

# 幼児期から社会人に至るまでの プレコンセプションケア推進について



京都府健康福祉部  
こども・子育て総合支援室

# 1. 令和7年度の取組

# 京都府におけるプレコンセプションケア推進の方向性

## 子育て環境日本一推進戦略

令和5年12月1日

### 「プレコンセプションケアプロジェクト」の実施

- 妊娠に関する医学的な知識とライフデザインについて考える機会を一体的に提供するプログラムを全国で初めて開発し、幼児期から社会人に至るまで切れ目のないプレコンセプションケアに関する教育・研修プログラムを推進します。



## 子育て環境日本一・京都の実現に向けた取り組みの推進に関する条例

令和6年4月1日施行

(学校等の役割) ※「学校等」：学校に加え、就学前の保育・教育施設を含む。

第6条 (略)

2 学校等は、基本理念にのっとり、子育てにおいて家庭の果たす役割及びその重要性並びに医学的知見に基づく妊娠及び出産に関する知識の普及に努めるとともに、こどもが自らの人生設計（自らの夢や希望の実現を図るために各ライフステージを踏まえた計画を立てることをいう。） を考える機会及び乳幼児との触れ合いその他の子育てを体験する機会等の提供の取組を通じて、家庭を築くこと、こどもを生むこと及びこどもを育てることに対する関心と理解を深められるよう努めるものとする。

# 京都府におけるプレコンセプションケア推進（集団的アプローチ）の全体像①

幼児期

小学校

中学校

高校

大学

社会人

令和5年度まで

助産師による出前授業  
（令和5年度実績）  
小学校：24校 / 365校  
中学校：8校 / 188校

医師による出前授業  
（令和5年度実績）  
3校 / 114校

## 【課題】（助産師・医師の意見）

- 現状のマンパワーでは、より多くの出前講座は困難

## 【課題】（出前講座を活用した教員の意見）

- （自前で授業しようにも）教材・資料がなく、公的機関が作成した教材が欲しい
- 性に関する指導については、いわゆる「はどめ規定（※）」の影響で、どのように取り扱って良いかわからない  
（※中学の学習指導要領で「受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わない」とされていること等）

# 京都府におけるプレコンセプションケア推進（集団的アプローチ）の全体像②

幼児期

小学校

中学校

高校

大学

社会人

令和6年度

助産師による出前授業  
（令和6年度実績）  
小学校：18校、中学：8校

医師による出前授業  
（令和6年度実績）4校

教育プログラム開発  
→学校でモデル実施

精華大学と連携  
したチラシ、マ  
ンガ作成等  
普及啓発を実施

セミナーの実施（3回）

令和7年度

保育士等  
対象の研修会

助産師による出前授業

各学校で実施  
→プログラム更新

研修プロ  
グラムの作成

セミナーの実施（6回以上予定）

普及啓発を実施

手薄であった世代への  
啓発・研修を拡充

各学校でアレンジ可能な  
学習プログラムの  
開発・活用

手薄であった世代への  
啓発・研修を拡充

# 「きょうとプレコン」の普及啓発

「きょうとプレコン」  
WEBサイトを開設



<https://kyoto-kosodatepia.jp/preconception/>

地域包括連携協定に基づき、京都精華大学マンガ学部の  
大学生が啓発用のマンガ等を作成



★啓発資材は、京都府のホームページに掲載しています。  
<https://www.pref.kyoto.jp/preconception/index.html>

## サイト閲覧数

7,458回 (R8.2末時点)

## 高校生プログラムDL数

706回 (R8.2末時点)



配布数：約16,000部 (R8.3月13日時点)

## 主な配布先

各種イベント、研修会、大学、成人式 (一部市町村のみ) 等



# 「きょうとプレコン」の普及啓発②

## 「きょうとプレコン」啓発動画（15秒）を作成



### Youtube・Google広告で配信

Youtube再生回数 : 29.3万回 (R8.3/13時点)

Google広告視聴回数 : 20.2万回 (R7.11/10~12/9の期間で配信)

### デジタルサイネージで配信

地下鉄 (京都駅・四条駅)、イオン (亀岡・久御山・高野原) 等

### OiTr(オイテル)サイネージで配信 ※トイレの個室内のサイネージ

龍谷大学、京都外国語大学、京都精華大学、京都産業大学、福知山公立大学、京都女子大学、河原町オーパ、ミュー阪急桂 等



# 小学生・中学生等に向けた取組

## 助産師が行く！いのちの出前講座の実施

- 平成28年度に開始し、令和7年度で10年目
- 公益社団法人京都府助産師会に委託し、助産師が各学校にて授業を実施
- 小中学校のほか、特別支援学校にも対応  
⇒ R7年度 新たに聾学校・盲学校での出前講座を実施
- 他校の教員の見学を可能としており、毎回10名前後の教員が見学を受け入れている  
⇒ R7年度 新たに助産師過程などの大学生の見学も受け入れ
- 毎年、約30校で実施しているが、希望する学校は30校を超えており、全ての希望校には出向けていない状況

【R7実績：30校】

小学校15校、中学校9校、特別支援学校6校（聾学校・盲学校含む）

その他、各市町村や保健所においても出前講座を実施

令和7年度プレコンセプションケアプロジェクト事業  
(学校と連携した妊娠・出産に関する啓発等)

### 助産師が行く！ いのちの出前講座

いのちの誕生に携わる助産師だから伝えられること

京都府助産師会では「性と生」の啓発として、思春期の子どもたちへ出張講座を実施しています。京都府の委託を受け実施する本事業も今年で10年目になり、非常に好評いただいております。子どもたちが専門職から正しい知識を学ぶ機会として本事業をぜひご利用ください。

【費用】 講師料、交通費 無料  
【対象】 京都府内の小学校5、6年生、中学校1～3年生、及び、特別支援学校高等部1～3年生  
【定数】 30校程度（小・中学校、特別支援学校併せて）  
【日程】 令和7年9月16日(火)～令和8年1月30日(金)までのご希望日  
【講座内容】 裏面参照（小中学校は各校同一プログラム、特別支援学校は選択制）  
【申込方法】 京都府助産師会HP (<https://kyoto-mw.jp/>) 申込みフォームより → ホーム>教育・子育て支援関係の方へ>学校と連携した妊娠・出産に関する啓発事業  
【申込期間】 令和7年6月2日(月)～6月27日(金)  
【注意事項】  
✓ 申込多数の場合、実施校については本事業の利用が初めての学校や直近の実施がない学校を優先し、その他開催地域や過去の実績等を踏まえて京都府が選定します  
✓ 近隣校や行政、京都府の選定した大学生の講演見学等の受け入れをお願いします  
✓ 選定通知は7月上旬を予定しています  
✓ フォームでのお申込みが不可能な場合は、問い合わせ先の京都府助産師会館までお電話ください

【お問い合わせ】 公益社団法人 京都府助産師会  
京都府委託事業「学校と連携した妊娠・出産に関する啓発事業」担当：櫻川  
☎ 075-841-1521【月～金】9:00-13:00【火・水・木】10:00-15:00  
ホームページ <https://kyoto-mw.jp/>  
メールアドレス [kyoto-midwife@ray.ocn.ne.jp](mailto:kyoto-midwife@ray.ocn.ne.jp)  
住所 〒604-8493 京都市中京区西ノ京南両町33-1



# 大学生に向けた取組

## 広報・啓発

保健管理センターなどが行うイベントにおいて広報・啓発  
(同志社大学・同志社女子大学、京都文教大学)

## セミナーの実施

大学の授業等でセミナーを実施  
(京都府立医科大学、京都精華大学、明治国際医療大学、京都華頂大学 等)

## イベントの実施

イオンモール五条で大学生によるトークセッションを開催



# 社会人に向けた取組

## セミナーの実施

### ▶ 社会人向けプレコン セミナーの実施

#### 若手社会人向け

性や健康に関する科学的知識の普及や、企業で働く先輩職員とのトークセッションを行い、自身のキャリアデザインを考える機会を創出

#### 人事労務担当者向け

健康経営の視点から企業でプレコンに取り組む重要性について、セミナーを実施

## 研修プログラムの作成

### ▶ 企業の人事担当者や産業医等が社内研修等で 使用できる研修プログラムを作成

#### セミナー用スライド（ppt編集可能）

性や健康に関する科学的知識を学ぶ「レクチャー」、ライフデザインの参考となる先輩との「トークセッション」、自身の将来やライフデザインを考える「ワーク」で構成。

#### 講師用プログラム

セミナー用スライドを扱う際の留意事項や補足情報のほか、個人ワーク・グループワークでの留意点等を記載。

#### 動画教材

医師と若者の対談形式により、プレコンの概要について学べる動画教材。企業でのセミナーのほか、職場の健康診断等での使用を想定。



# 令和7年7月1日開始 「きょうと妊娠から子育てSNS相談」 「きょうと妊娠SOS」

## コンセプト・実施内容

- ・ SNS(LINE)の活用や相談時間の拡充により、若年者も気軽に相談できる窓口へ
- ・ 多職種連携により、幅広い悩み相談に対応、必要な支援につなげる
- ・ 京都府・京都市の4つの相談窓口を統合し、オールインワンサポート

## きょうと妊娠から子育てSNS相談

妊娠・出産・子育てに関する幅広い相談に対し、  
LINEテキストとオンラインによる対面面談で相談可能  
(受付時間) 24時間365日 24時間以内に返信

## きょうと妊娠SOS

予期せぬ妊娠等に関する相談をLINEテキストで相談可能  
(受付時間) 24時間365日  
(対応時間) 月・水 9:00~12:00  
火・金・土 15:00~18:00 木 17:00~20:00

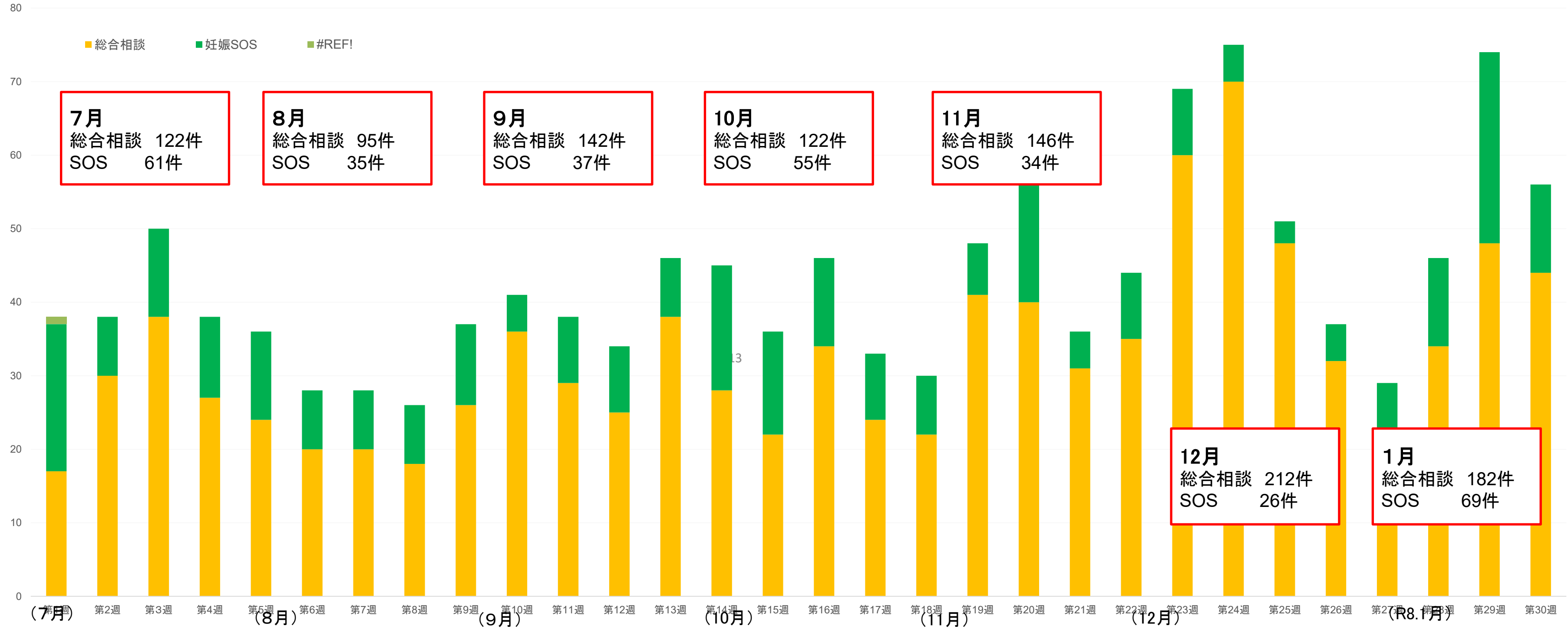
無料・匿名



# 相談事業（週ごとの相談件数）

- ・7～1月までの7か月間の相談総数（延数）は、子育て総合相談が1,025件、妊娠SOSが317件。
- ・総合相談は、12月、1月と相談数が200件前後であり、開始以降相談件数は増加している。1日平均6.6件。
- ・妊娠SOSは、1月の相談数が過去最大の69件。1日平均1.8件。（1件の中で複数回ラリーを行っている。）

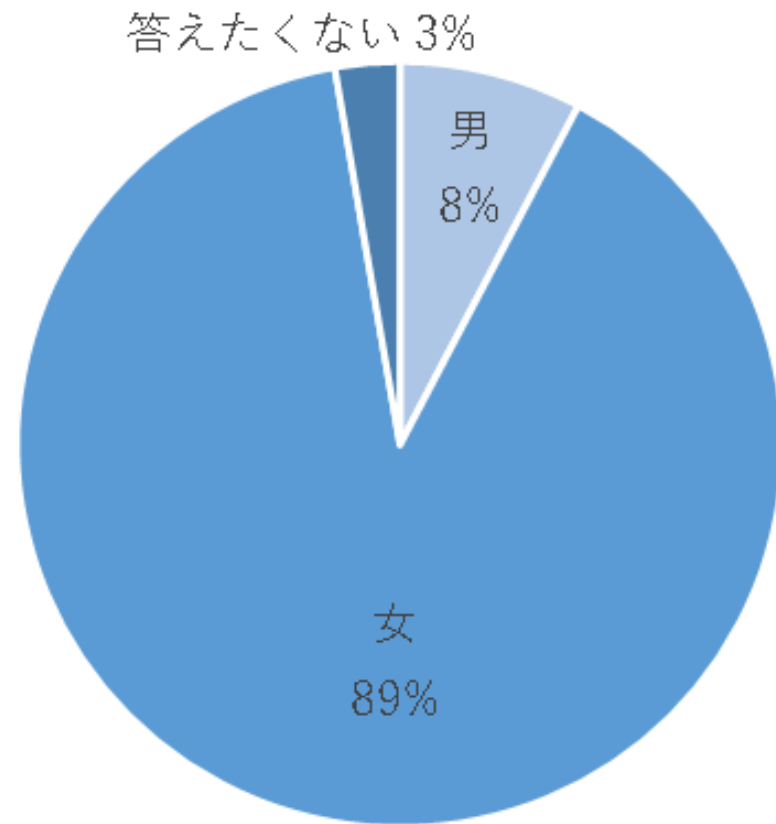
件



# 相談事業（相談者の属性（性別・年代））

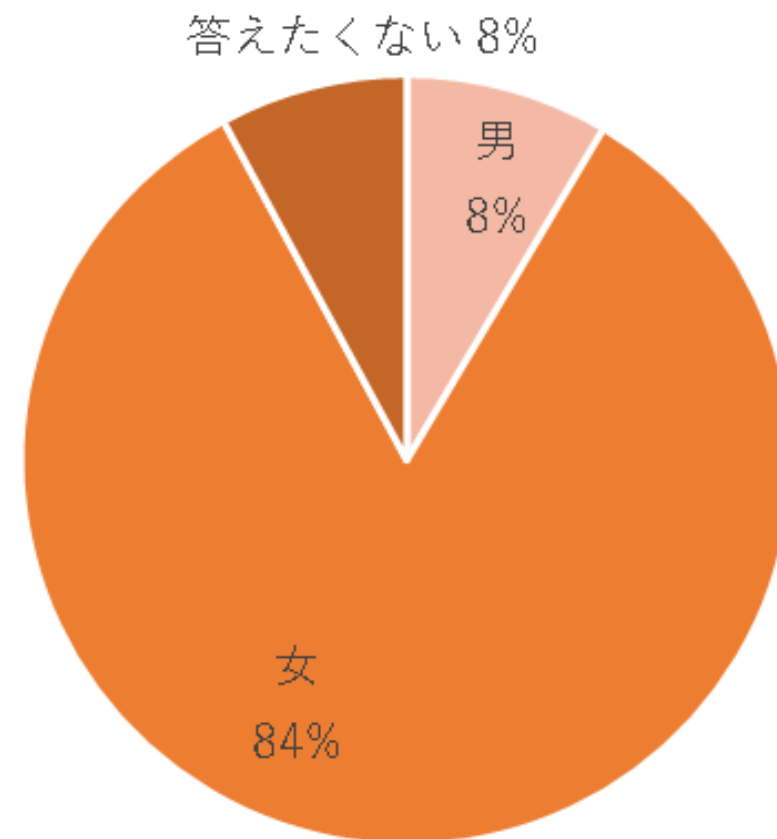
- ・性別は、両相談とも女性からの相談が多くを占めているが、男性からの相談も8%前後ある。
- ・年代は、総合相談では20代・30代・40代で約94%を占めているが、妊娠SOSは10代・20代が約75%を占めている。

総合相談 N=1,025  
(R7.7月～R8.1月)



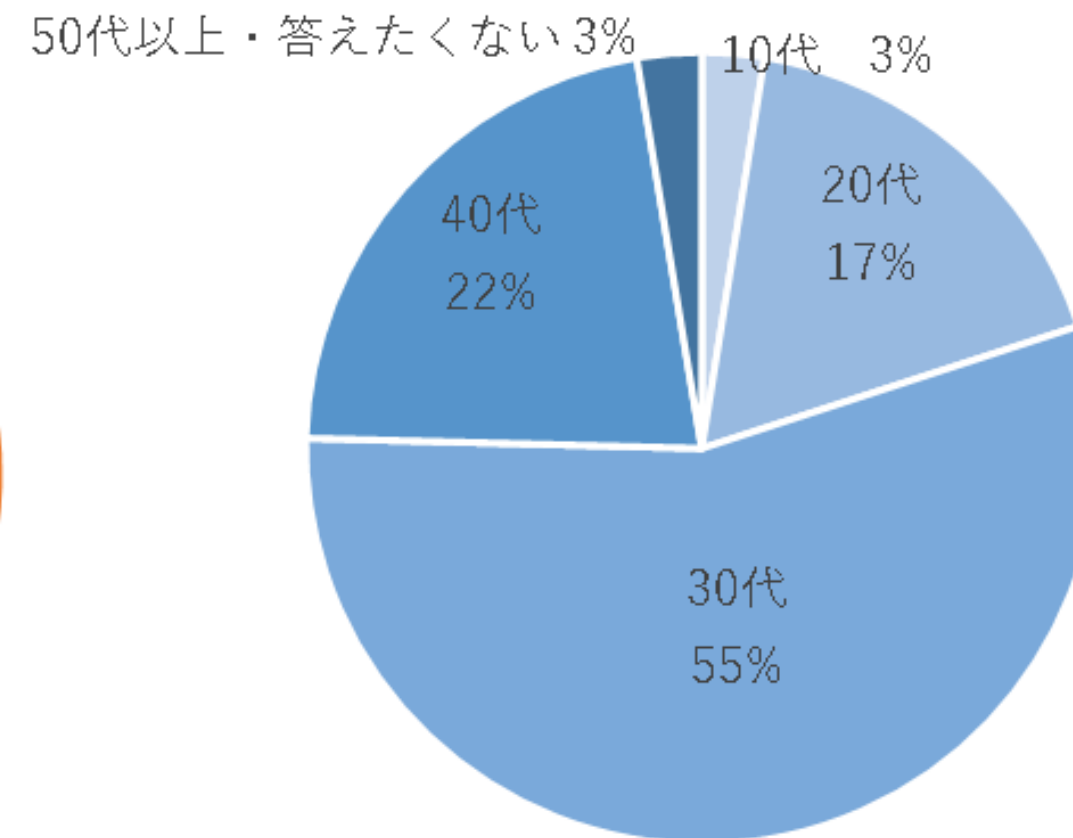
男 79人  
女 918人  
答えたくない 28人

妊娠SOS N=317  
(R7.7～R8.1月)



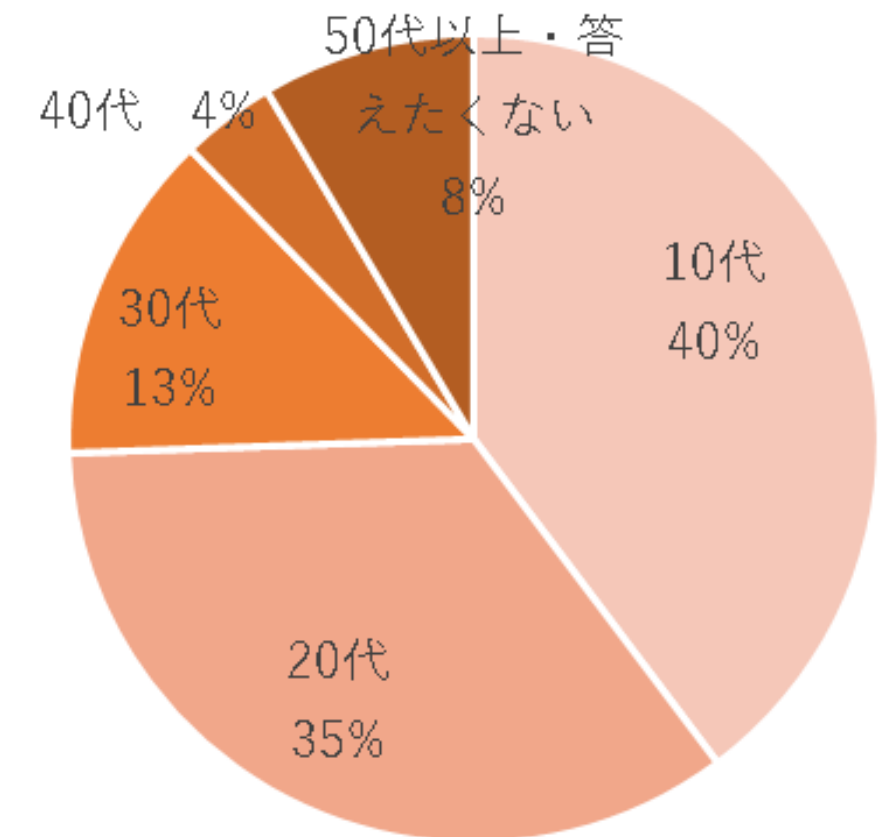
男 27人  
女 265人  
答えたくない 25人

総合相談 N=1,025  
(R7.7月～R8.1月)



10代 26人  
20代 179人  
30代 568人  
40代 225人  
50歳以上・答えたくない 27人

妊娠SOS N=317  
(R7.7～R8.1月)



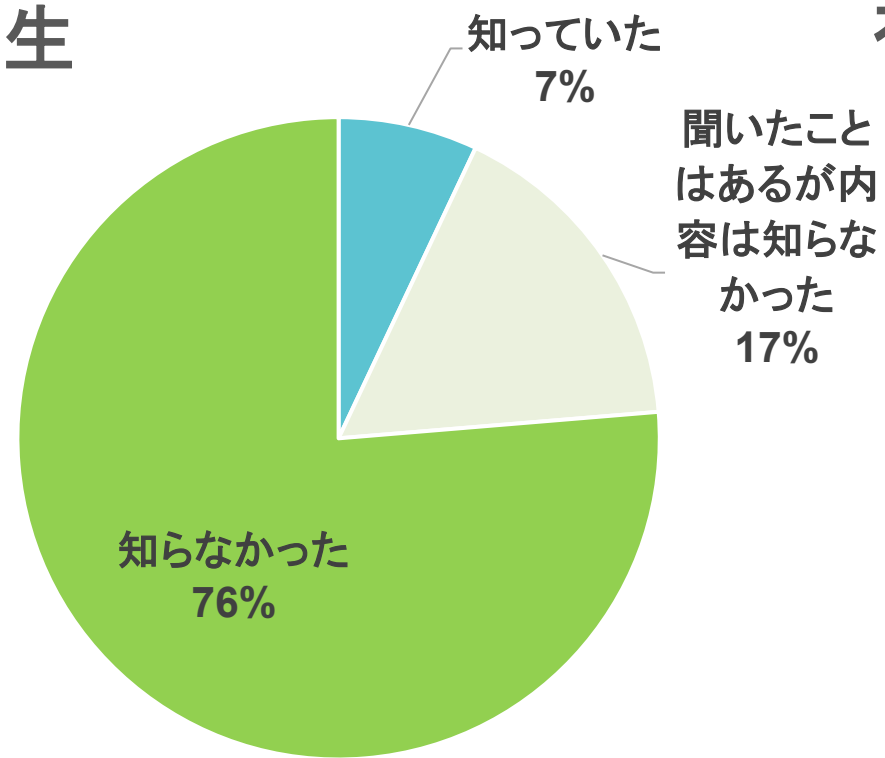
10代 87人  
20代 43人  
30代 24人  
40代 9人  
50歳以上・答えたくない 25人

# プレコンに関する主なアンケート結果

## プレコンの認知度

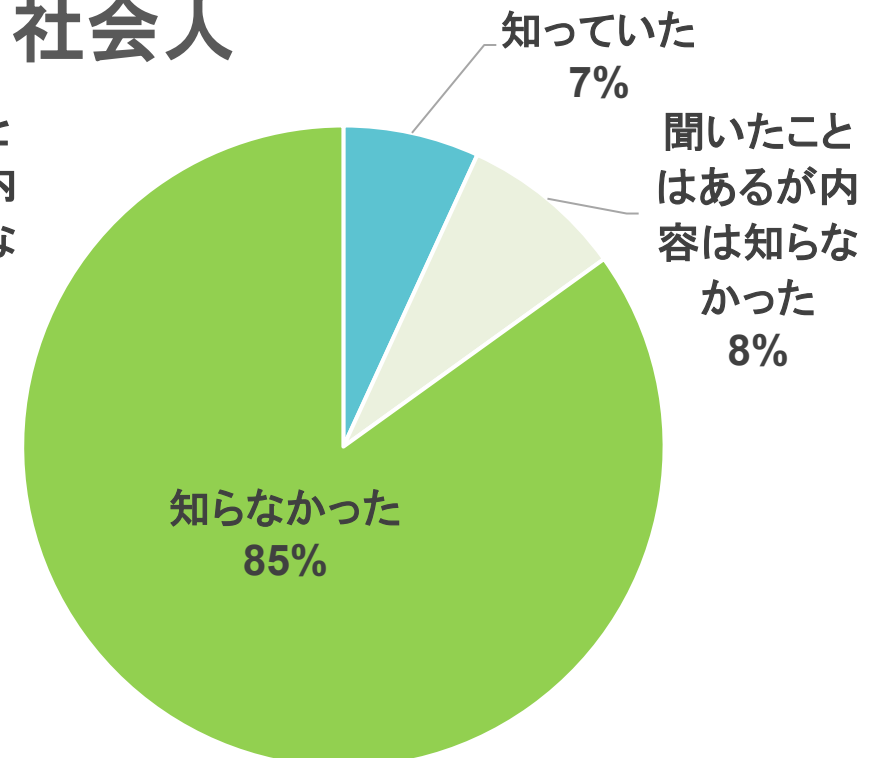
教員・専門職等以外は7割以上が知らなかったという結果に

### 学生



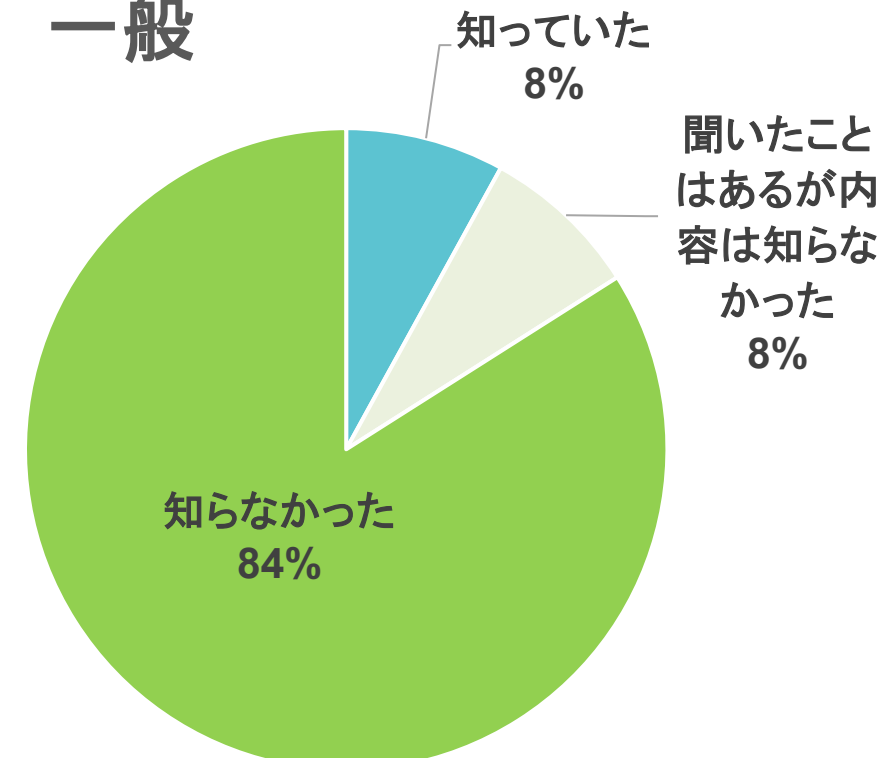
n=114人（学生向けセミナー、学生祭典）

### 社会人



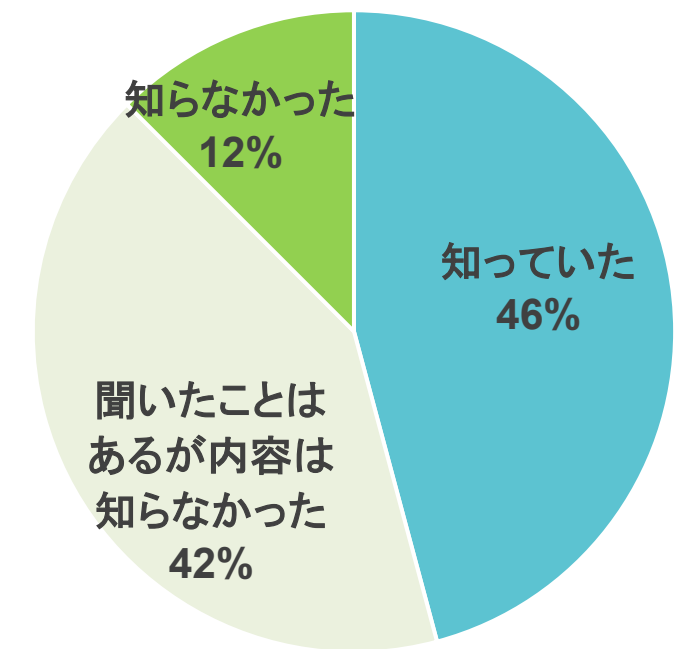
n=73人（社会人向けセミナー）

### 一般



n=200人（イオンでのイベント）

### 教員等



n=24人（高等学校教員向け研修会※学生除く）

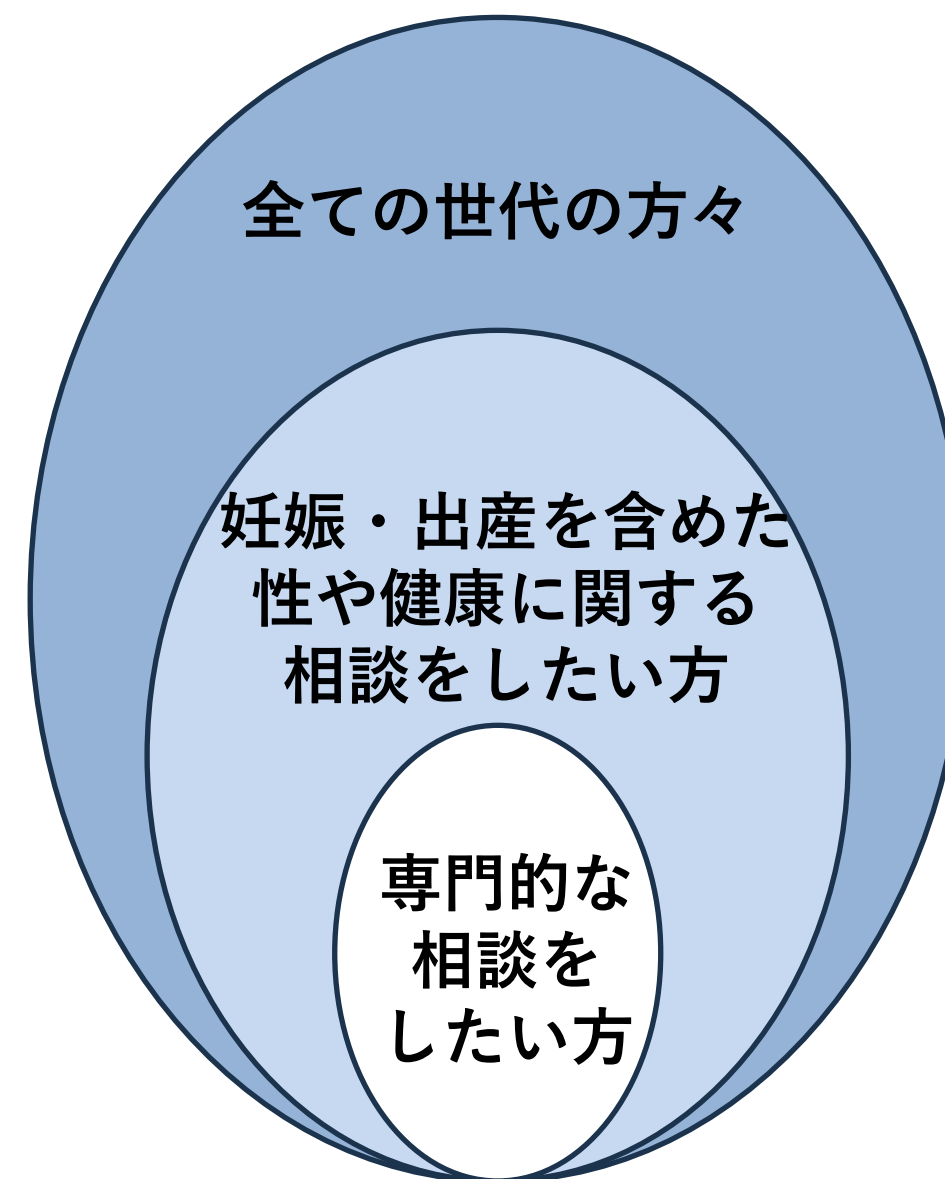
## その他意見等

- ・ 講師や保護者向けの出前講座（研修）も必要。
- ・ 乳幼児期から発達段階に応じたプレコンセプションケアの伝え方について学んでみたい。
- ・ 保育園や幼稚園でもプレコンに関する働きかけをしていきたい。

## 2. 令和8年度以降の取組

### 【今後5年間の集中的な取組】

- 性と健康に関する正しい知識の普及と情報提供  
＜目標＞認知度80%、プレコンサポーター※5万人以上
- 相談支援の充実（一般相談）  
＜目標＞相談窓口認知度100%
- 相談支援の充実（専門相談）  
＜目標＞専門相談医療機関数200以上



※プレコンサポーターとは

- ・プレコンセプションケアを推進することを目的とし、自治体・企業・教育機関等において、性別を問わず、性や健康に関する正しい知識の普及を図り、健康管理を行うよう促す人材のこと。

⇒ **R8.1月「プレコンサポーター養成講座」開始**

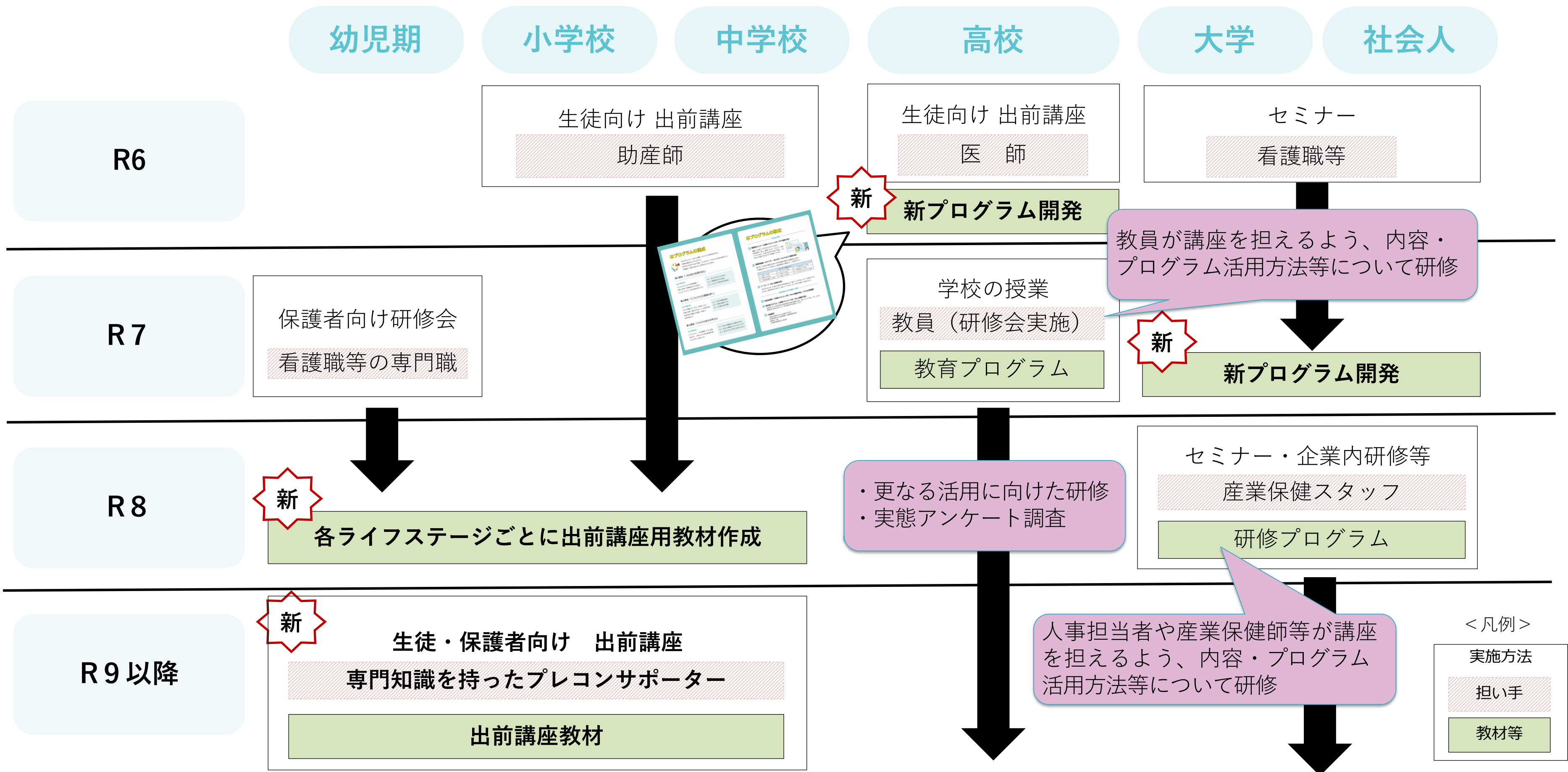
- ・養成講座を修了することで、職種に限定されず、誰でもプレコンサポーターになることができる。

<こども家庭庁HP>



URL:<https://precon.cfa.go.jp>

# R8年度以降の取組（集团的アプローチの全体像）



## ＜幼児期～中学校＞今後の取組（案）

### 課題

- ▶ 幼児期から自分の体を大切にするという意識を育むとともに、発達段階に応じた科学的知識を身に付けることが、これからの健康増進等につながる。
- ▶ 小・中学校等に対して、助産師による出前講座を実施しているが、マンパワーの問題で、希望する全て学校で授業を実施できていない

### 取組（案）

幼児期からプレコンセプションケアをさらに推進するための取り組みとして

- ✓ **小・中学生及びその保護者・保育士等に向けた出前講座の担い手（保健師・看護職等）の確保・育成の取組を更にすすめることとしてはどうか。**  
この際、国の「プレコンサポーター養成講座」の受講に加えて、きょうとプレコンにおいて重視しているSRHRの考え方等についても追加で学んでいただくこととしてはどうか。
- ✓ **また、こうした担い手が出前講座を実施する際の質の確保や事務負担の軽減といった観点から、出前講座で用いる教材のフォーマットを新たに作成してはどうか。**

## < 高校生～社会人 > 今後の取組 (案)

### 高校生

#### 【課題】

- どれくらいの学校で活用されているか把握ができていない
- 更なる活用に向け、取組が必要

- ✓ 実態把握に向けて、教職員向けアンケートを実施
- ✓ 更なる活用に向けた研修会等を開催

### 大学生・社会人

#### 【課題】

- 学生や若手社会人等は、7割以上が「プレコンを知らなかった」→認知度が低い
- R7 社会人向けプログラムを作成したが活用に向けた取組が必要

- ✓ 引き続き、大学生・企業と連携したセミナー等を実施
- ✓ 無関心層へアプローチするため、プレコンイベントを開催 (500名規模)
- ✓ プログラム活用に向け、人事担当者や産業保健師を対象とした研修会を実施